

三原発「ITの学びのモデル」

MIHARAプログラミング教育推進協議会は、三原を「世界のIT・スタートアップ集積地域」とするために、プログラミング教育の普及推進活動を行っている。

三原は、小早川隆景公の時代の城下町、重化学工業の工場地帯として栄えたが、事業活動を通じて、第四次産業革命時代のMIHARAをつくる歴史的一步を踏み出す。すなわち、サービス、流通、小売り、製造、建設等あらゆる分野や事業領域で、IoTやICT等の新規事業が次々と生まれる世界のMIHARAビジョンに向けた仕組みづくりを行う。

したが、新たなサービスを創出するために、コミュニケーションロボットを三原市内のホテルや飲食店などに設置する目標に向かって、三原発のITのプロジェクトベースラーニングの学びのモデルをつくり、メンター育成および児童生徒へのプログラミング学習機会を提供している。

核となる3つの取組み



メンター育成の研修会。研修会を受けた後に、児童生徒向け講座でプログラミングの指導・補佐を行う。



ロボットプログラミング講座。児童生徒が、三原市内に設置するロボットのプログラミングを行う。



三原市内の飲食店やホテル受付に、一定期間、ロボットを設置する。ニーズ調査、プログラム作成の一連を実施する。

MIHARAプログラミングコミュニティ

データを入力することで会話や動きを制御できるロボット型携帯電話「ロボホン（シャープ製）」をプログラミング教材として使い、小・中学生だけでなく大人もプログラミング技術を学ぶ。地域連携によるプログラミングコミュニティを形成している。

メンター

児童・生徒



店舗(商店街等)

2020年プログラミング教育必修化

三原発の学びのモデル

地域内外への貢献

プログラミング教育を三原の名物にして、地域内外への貢献を果たしていく